

よみがえれ！有明海・国会通信

よみがえれ！有明
海訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

漁業者が日当八千円のアルバイト 漁民としてのプライドもズタズタに

海苔は獲れていない(大牟田)

ノリ養殖漁業者の松藤文豪(福岡県大牟田)は、水門締切以前は2月半ばまでだった漁期を締切後は4月上旬まで延ばすことでノリの枚数を稼いでいる。品質の悪いノリであってもとにかく収穫し枚数を稼がなければ生活ができない。収穫枚数だけで見ると獲れているようにみえるが漁獲高は以前の半分程度に落ち込んでいると述べた。現に、松藤の漁獲高は締切前が1コマあたり百万円であったが、豊作と言われた今年でも五十一万円にまで落ち込んでいる。

馬奈木昭雄弁護団長は、従来、農業と漁業とが相反するかのようによく言われてきたがそうではない。水門を締め切り水質が悪化したままの調整池では農業はできず、農業をきちんとやるためにも開門が必要だ。心を一つにというのは、農民と漁民が手を携えて一緒にやれるということ。漁民同士にも干拓推進派、反対派の対立関係があるかのように言われていたが宝の海を取り戻したいという願いは同じ。国民もこの願いを支持している。この願いを阻んでいるのは農水省だけ。開門こそ、現実的かつ容易で誰もが喜ぶ真の意味での公共事業であると述べた。

松永原告団長(長崎県)

諫早干拓で地域も崩壊

同事件原告団長の松永秀則(長崎県小長井)は、諫早湾干拓の影響によって漁場が壊されたのに、国は責任を認めようとしめない。このまま国が逃げてしまうと有明海は壊されて漁民と地域の崩壊です。このままではどうにもならないので訴訟に踏み切った。漁協幹部からの圧力がかかり、そういうこと(国に歯向かう裁判など)をしたら補助事業が打ち切られると脅されるなどの圧力があつたが、国会で大串博志議員(衆・民主・佐賀)が取り上げてくれるなどして、表向きは妨害がなくなり提訴できた。国は、開門には効果がない、逆に被害が出るなどと言つて開門を拒否しているが、開門をする事で有明海異変の原因が明らかになつてしまうことを恐れて開門をしないのではないのか。何とか政治決断をしていただきたい。官僚の体制を崩していただきたい。有明海と有明海で生きる漁民たちを助けて下さいと訴えた。



五月八日、公共事業チェック議員の会(鳩山由紀夫幹事長、保坂展人事務局長)の主催で、有明海の再生のための諫早干拓受堤防の開門に向けたヒアリングが行われた。このヒアリングでは、第一部として、先月三〇日に長崎地裁に提訴した「よみがえれ！有明海訴訟小長井大浦漁業再生請求事件」原告団からの提訴報告会が行われ、第二部として、農水省及び研究者(宇野木早苗元東海大学教授、経塚雄策九州大学大学院教授)からのヒアリングが行われた。

5月8日チェックの会ヒアリング開催